

する主な精神疾患で、これまで経験のない精神医療従事者にも災害精神医学の必要性に迫る内容となっている。

第5章災害の精神・心理面のトリアージ（ふるいわけ）では現場での危機性のとらえ方を詳述し、第6章サイコロジカル・ファーストエイド（大澤智子著）、そして第7章RAPIDPFA（サイコロジカル・ファーストエイド ジョンズホプキンス版）（中尾智博・村山桂太郎著）により基本的な支援姿勢を伝えている。また、第8章DPAT（福生泰久著）では最近の国家的災害精神医療の支援のあり方を示し、かかわらない者でも知るべき内容として広く理解できる内容を示している。

第9章災害と子ども①（今村芳博著）、第10章災害と子ども②—被災地における長期予後経過、治療（八木淳子著）、第11章災害と高齢者では、被災地でのハイリスク者とその支援について解説している。そして、被災者だけでなく支援者のサポートにも視点をあて、第12章救援者のメンタルヘルス（高橋祥友著）、第13章被災地における支援者支援、第14章中長期の被災者支援（加藤寛著）を章立て、支援する側のメンタルヘルスにも着目している。

後半部分の第15章災害時の薬物療法では災害精神医療としての治療の側面も取り上げ、さらに現場でのサポートの実践的な知識として、第16章被災地における心理的援助と多職種連携（池田美樹著）において実践的な知恵を与えている。

この本の最後に向けて、災害の領域ともなりうる危機的な状況と海外の状況を取り上げ、第17章感染症とパンデミック（世界的大流行）—COVID-19の経験から、第18章人為的災害（重村淳・黒澤美枝著）、第19章海外での災害、そして支援の現状、第20章海外の災害支援の現状（田中英三郎著）でこの本は締めくくられる。

序文にあたって高橋先生は「そもそも災害精神医学とは何だろうと考えてみた」という問いを立てている。災害時に従事者が何をしたらよいのかという課題に直面することを想定したときに、助けとなる必携の書となることに違いない。そして、カッツ教授が刊行によせた言葉の真の意味をわかることになるだろう。支援や活動の多忙の中、多くの知見をまとめた高橋晶先生と著者陣に心より敬意を表します。

災害精神医学入門 第2版

災害に学び、明日に備える

高橋 晶編著

金剛出版、A5判320頁、3,960円、2025年6月刊

（岩手医科大学神経精神科学講座）大塚耕太郎

本書は災害派遣精神医療チーム（以下、DPAT）での活動や、学会での災害精神医学領域の活動を主導されている高橋晶先生による現場に裏打ちされた経験と、学術的な知見により、しっかりと学ぶことができる著作である。グレイグ・L・カッツ教授がこの本の最初に刊行によせてというところで「不可欠な知識を提供し、経験豊富な専門家にとっても不足している知識を補填し、災害精神医学のスキルを磨くための良書」と紹介している。

第1章では災害精神医学とは、という命題を取り上げ、第2章ストレスとメンタルヘルス、第3章災害精神医学の歴史（今村芳博著）、第4章災害に関